

第四十五回 帝國議會 信託法案外四件

信託法
非公認保附社債信託法
所得稅法中改正法律案
印紙稅法中改正法律案
稅法中改正法律案
日本銀行業法中改正法律案
臺北銀行法中改正法律案
海道拓殖銀行法中改正法律案
銀行法中改正法律案

委員會議錄(速記)第四回

出席委員左ノ如シ	大正十一年三月四日午後三時二十分開議
委員長 指田 義雄君	
理事 白井 博之君	理事 鈴木久次郎君
理事 上田彌兵衛君	吉野小一郎君
柿原政一郎君	小田切磐太郎
横山金太郎君	加藤久米四郎君
出席政府委員左ノ如シ	山邊 常重君
大藏省銀行局長	大島實太郎君
司法省民事局長	黒田 英雄君
司法省參事官	鈴木富士彌君
池田寅二郎君	最上 直吉君
三宅正太郎君	
本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ	
信託法案	
○指田委員長 是ヨリ開會致シマス、金錢信託ノ場合ニ於テ、其信託セラレタル財產——金錢ノ範圍内ニ貸付ヲスルト云フコトハ、經營ノ確實ナ會社デ經營ヲシテ居ル業務デアリマスガ、ソレガ業務ノ中ニ認メラレナイヤウデアリマスガ、其理由ハドウ云フ譯デアリマスカ	○指田政府委員 只今ノ御尋ハ、實ハ色々ナ場合ガ有グラウト思フノデス、單純ニ金錢信託ヲシテ居ル、光ヅ一例ヲ申上ゲマスト、自分ガ金錢信託ヲシテ、サウシテ自分方共利益者ニナツテ居ル場合モアリマスシ、或ハ自分方金錢信託ヲシテ、サウシテ利益者ハ他ニアルト云フ場合モアルダラウト思ヒマス、ソレデ信託ヲシテ居ル關係ト云フモノハ、普通ノ銀行ノ預金ヲシテ居ル關係、或ハ貯蓄銀行ノ場合ニハ定期積金ノ契約ヲシテ居ル者、或ハ無盡契約ノ場合ニ於ケル加入者ト云フモノトハ餘程遠フノデアリマシテ、今申セヤウナ第一ノ例ノ自分が金錢ノ信託ヲシテ、サウシテ自分方利益者デアルト云フ場合ハ、多少銀行ノ預金等ノ經濟關係ト類似シテ居ルノデアリマスケレドモ、他人ヲ利益者ニシテ居ル場合ハ餘程遠テ居ルノデアリマス、ソレデ信託法ノ理論カラ申シマスト、即チ利益權ト云フモノモ擔保トスルコトヲ認メナケレバナラヌ、財產其物ハ信託會社ノ物ニナッテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ擔保トスルコトハ出來ナイノデアッテ、利益權其物ヲ擔保トスルト云フコトハ、法律上カラ申シマスト、擔保ト爲スコトハ出來ルノデアリマスガ、左様ニ解釋シテモ信託ト云フモノハ、勿論此信託ノ債權ト云ト云フ親ノ信託ノ目的ヲ、信託者自身ガ破ッテシマツテ、經費ハ詰リ信託行爲ノ目的ガ、或ハ年々千圓宛給スルト云フ契約デアルニ拘ラズ、其信託財產ノ限度ト致シマシテ、ソレニ今日十万圓ナラバ十万圓ト云フ信託財產ヲ限度トシタ、十万圓ノ貸付ヲシテシマフト、年々千圓宛學資金ヲヤラウシタニ拘ラズ、ソレヲ直ニヤッテシマウト云フ結果ヲ來シハシナイカト云フコトデ御答申シタ、唯自分ガ金錢ヲ信託シメテ十萬圓ノ金ヲ與ヘテシマフ、親バ未成年ノ子供ノ成年ニ達スル迄ニ財產ヲ與ヘルノハ、危險デアルト云フノデ信託シタニ拘ラズ、ソレヲ直ニヤッテシマウト云フ結果ヲ來シハシナイカト云フコトデ御答申シタ、唯自分ガ金錢ヲ信託シメシテ、自分ガ總テノ利益ヲ、年々千圓ナラバ千圓宛ヲ得フル、五年ノ後ニ元金ヲ返シテ貰フト云フ信託ガアリマシタラバ、弊害ガ無イデナイカト云フ御疑念ガアルカト思ヒマスガ、其場合ニ於キマシテハ多少銀行ノ預金ニ似テ居リマス、成程其場合ノミヲ見マスト差支ナイヤウニ見エルノラアリマスガ、廣ク申シマスト信託ノ本旨ニ反スルヤウニテ貸付ヲ認メルト云フコトニナルト、利益ノ期間ガ來ナイシテ置イテ、不時ノ入用ガアッタ時分ニ、安シジテ信託金ヲ借入レル事ガ出來ナイト云フ事デアッテハ、信託財產ヲ信

ト云フコトモ信託ノ本旨ニ反スルト云フコトヲ言ヒ得ル、

又信託財産ノ限度ト申シマスカ 信託契約人或干人ニ付キ
マシテハ、利子ノ最低歩合及元本ノ保障ヲ認メテ居ル、是ハ
主張上既定ニシテ、是ハ、金銭信託ノ中ノ

九條ニ規定シテアル通リテアリマス是ノ金銭信託ノ中一部デアリマス、他ノ信託ニ於キマシテハ、損益共ニ之ヲ受益者ニ歸セシムルコトガ信託ノ本旨デアリマス、今信託財産ト云フコトガ茲ニアリマスガ、併シ之ヲ運用スルトキニ信託財産ガ無クナッテシマッテモ知ラナイ、サウ云フ性質ヲ持ツテ居ルモノニアテ、銀行ノ預金ノ如ク元本ヲ當然返サケレバナラヌ債務ヲ帶ビテ居ルノデナイ、信託會社ニ於テ或ハソレヲ返サヌデモ済ム場合ガ起ルカモ知レスノデアリマスカラ、擔保トシテ確實ヲ缺イテ居ルト云フコトヲ言ヒ得ル、又擔保契約ヲ設定スルニ付テノ手續カラ申シマントモ、預金ノ場合ニハ或ハ預金證書ヲ握ッテ居ルト云フ事モ認メラレテ居ルト云フコトガ言ヘナイト思ヒマス、即チ擔保權ノ設定ト云フコトガ今日ノ法制上出來ナイト、所謂自分ノ持ツテ居ルモノヲ見返ト申シマスカ、多少ソレヲ頭ニ置イテ、貸スト云フコトヲ頭ニ置イテ、貸シタ財産ハ今申スヤウニ場合ニ依ルト、損失ヲ來セバ受益者ノ負擔ニ歸シテ返託ノ場合ニ於テハ、信託財産ニ依リマシテハ、或ハ之ヲ受益權ノ擔保權ヲ設定スル方法ハ、今日民法其他ノ法律ニ依ッテアリマスカ、是モ多少確實ニスル方法カトモ思ハレマス、信託ノ場合ニ於テハ、信託財産ニ依リマシテハ、或ハ之ヲ受益權ノ擔保權ヲ設定スル方法ハ、今日民法其他ノ法律ニ依ッテアリマスカラ、私ノ質問ハ解釋主義ノ意味ニ於テ御尋制デアリマスカラ、私ノ質問ハ解釋主義ノ意味ニ於テ御尋スル次第デアリマス、成ベク精密ニ御答辯ヲ願ヒタイ、先ヅ第一ニ信託行爲ナルモノノ法律上ノ性質ニ付テ御伺致シマス、第一條ニ依リマスト「本法ニ於テ信託ト稱スルハ財產權ノ移轉其ノ他ノ處分ヲ爲シ他人ヲシテ一定ノ目的ニ從ヒ財產ノ管理又ハ處分ヲ爲サシムルヲ謂フ」ト規定シテアリマス、而シテ此場合ニ財產權ハ完全ニ委託者カラ受託者ニ移轉シテ、財產權其モノハ受託者ニ歸屬スルモノト存シマス、ソコデ御尋ヲ致シタイト思フノハ、曾テ大審院ニ於テ信託行爲ノ有效無効ニ付キマシテ、關係ヲ内外ニ區別シテ、内部ノ關係ニ於テハ財產權ハ移轉スルケレドモ、外部關係ニ於テハ移轉ヲシナイト説明セラレタノデアリマスガ、本法發布以後ニ於テ大審院ノ見解ハ、全然必要ガ無クナッタモノノヤウニ考へマスガ、サウ解釋シテ宜シウゴザイマヘカ○池田政府委員御答致シマス、是迄判決例等ニ現ハレテ

居リマス所謂信託行爲ト云フモノニ付キマシテ、當事者ノ間ニ財産權ガ完全ニ移轉スルモノデアルカ、或ハ其移轉ガ關係的ノ意味ヲ持テ居ルモノデアルト云フコトニ付キマシテハ、多少ノ議論モアリマス、只今鈴木サンノ御述ベニナリマシタヤウナ判決例モ確ニアル事ト承知シテ居リマス、ソレデ大審院ノ判決例ヲ能ク調査シテ見マスルト云フコト、判決例ニアリマシタ事實ノ大部分ハ、所謂俗ニ賣渡擔保ト稱シテ居ルモノニ關聯スルモノノヤウデアリマス是等モ或意味ニ於ケル信託行爲トシテ、是迄取扱ハレテ居ツタモノニハ相違アリマセヌガ、本法ニ於キマシテ信託ト云フモノ第一條ニ於テ其大體ノ基本觀念ヲ定メマシテ、尙ホ其外第四條、第七條、第九條第十五條、第十六條、以下幾多ノ法文ニ於キマシテ、本法ニ於ケル信託行爲竝ニ信託ト云フモノノ性質ハ、詳細ニ定メテ居ルヤウナ次第ニアリマス、デアリマスガラ、本法ノ適用ヲ受ケマスル信託ト云フモノハ、ソレ等ノ規定ニ依リマシテ定メラレテ居リマス所ノ、其性質ヲ具備致シマスモノニ付キマシテハ、詰リ本法上ノ信託トシテ取扱ハレル次第ニアリマス、其他の於キマシテ只今申上げマシタ様ナ、例へば賣渡擔保ノ如キ、從來信託行爲トシテ、或ハ信託的取引トシテ取扱ハレテ居ルモノニシテ、只今述べマシタ本法ニ於ケル信託ノ性質ト同一ノモノニ付キマシテハ、全ク本法制定後ニ於キマシテハ、今鈴木サンノ御述ベニナリマシタ通り、財產上ノ權利ト云フモノハ、絕對的委託者、受託者ノ權利ニ相成ラウト思ヒマス、從來信託行爲ト認メテ居ルモノニ對シテモ、此本法ノ性質ヲ具備セザルモノニ付キマシテハ、ソレハ矢張何モ此本案ノ適用ヲ受ケルコトハナク、ソレドヽ契約其他ノ關係ニ依テ其性質ハ自ラ定マルデアラウト思ヒマス、デアリマスカラ、特ニ本法ノ第一條ニ於キマシテハ「本法ニ於テ信託ト稱スル」ト云フヤウニ書イテアル次第ニアリマス、本法ニ於テ信託ト申シマスノハ、此規定ノ中ニ含マレテ居リマス所ノ性質ヲ具備スルモノデアル、ソレニ當ルモノデアレバ、全然所有權ノ關係ト云モノハ、絶對的ニ移到ト云フコトニ御承知置キヲ願ヒタシト思フテ居リマス

○鈴木(富)委員 民法上ノ所有權ト、信託法上ノ所有權ト、完全變ハル所ナイト云フ御意見デアリマス、信託法上ニ於ケル所有權ハ、一定ノ目的ニ從テ管理又ハ處分シナケレバナラスト云フ、非常ナ制限ヲ受ケテ居リマスルガ、民法上ニアルヤウナ所有權トハ、根抵ガ違フヤウニ私ハ思フノデアリマス、ソレトモ所有權ノ性質共モノハ違ハヌケレドモ、唯一定ノ附款ヲ之ニ付ケタモノデアル、斯ウ云フ御解釋ニナルノデスカ

○池田政府委員 淘ニ適切ナル御質問デアリマスガ、本案ニ於テ執ツテ居リマス所ノ、此信託ノ性質ニ關スル主義ト申マスモノハ、信託ノ目的タル財產、之ヲ信託財產ト此處ニ言フテ居リマス、便宜ノ爲ニ信託財產ト云フ 文字ヲ使テ居リマス、其信託財產ト云フモノハ、完全ニ受託者ノ所有ニナルノデアリマス、而シテ受託者ハ唯其信託行為ニ依テ定メラレテ居リマス所ノ、其目的ニ從ヒマシテ、其財產ヲ管理處分スル所ノ債務ヲ負ウト云フコトニナリマシテ、即ナ受託者ト云フ者ハ、其財產ノ管理處分ヲ致シマスニ付キマシテハ、信託行爲ニ定マタ目的ニ從ハナケレバナラナイ、或意味カラ申シマスレバ、ソレハ確ニ「ツノ制限デアリマスガ、併シ其制限タルヤ、法律上ノ性質ハ所有權自體デアリマス所ノ制限デハアリマセヌデ、所有者トナツテ居リマス所ノ受託者ニ對スル對人的ト言ヒマスカ、受託者ガ其管理處分ヲスルニ付テ負擔シテ居ル所ノ、一つノ債務關係デアルト云フコトヲ執ツテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ、所有權ノ性質ニ付テハ民法上ノ所有權ト何等異ナルコトナキノミナラズ、又此所有權ヲ行使致シマスルコトハ、即チ管理處分ヲ致シマスコトニ付テノ制限ハ、物件ニ付イタ所ノ制限デハアリマセヌデ、寧ロ所有者タル所ノ、「ツノ債務的ノ制限ヲ執ツテ居ルト云フコトニ御承知ヲ願ヒタイ

○鈴木(富)委員 分リマシタ、ソコデ御尋フ致シマスルガ、財產權ノ移轉其ノ他ノ處分ヲ爲シ他人ヲシテ一定ノ目的ニ從ヒ財產ノ管理又ハ處分ヲ爲サシムルト云フ、此信託行為ハ契約デアルト云フ御説明ノヤウニ承知致シテ居リマスルガ、是ハ矢張普通ノ債權契約ト云フ御趣旨デアリマスカ、或ハ俗ニ所謂物件契約ト云フコトニナルノデアリマスカ、ソレヲ御尋致シマス

ハ、此一定ノ目的ニ從フテ財産權ノ管理處分ヲ爲スコトヲ定
メマシテ、サウシテ其財產權ノ移轉ヲスルト云フコトニ依

産權ノ移轉ハ其後ニヤツテモ差支ナイ、或ハ法理上ノ觀念ノ見方ノコトカ知ラヌト思ヒマス

關係ニ付キマシテハ二三種類ハアルヤウデスガ、大體性質
ハサウナツテ居ルカト思ヒマス、ソコデサウ云フ類ノモノガ

件其モノノ移轉ヲ、若クハ處分ヲ成立ノ要件トスルヤ否ヤ
ト云フコトガ、御質問ノ要旨デアッタカト思ヒマスガ、此契
約ノ成立ノ要件トハ心得テ居リマセヌ、併ナガラ受託者ノ
義務ト云フモノガ發生シマスニ付テハ、矢張信託財產ノ移
轉若クハ處分ト云フモノガ茲ニ出來マセヌト、管理ノ義務
ト云フモノハ、ソコニ具體的ニハ現實シナイト云フ關係ニ
ナルノデアリマス

○鈴木(當)委員 ソレカラ先ハ意見ノ相違ニアラウト思ヒ
マスガ、唯民法ノ規定ト比較シテ見テ、各種ノ債権契約ノ担
定ノ仕方ヲ見マスルト、是ト趣ガ變ニテ居ルノデス、例へバ
賣買ニ付キマシテ、民法ハ當事者ノ一方ガ或財產權ヲ相手
方ニ移轉スルコトヲ約シ、相手方ガ之ニ代金ヲ支拂フ事ヲ約
スルコトニ依ラテ生ズル、信託法第一條ニハ約スルト云々、物件の行爲其モノガ
文字モナケレバ、財產權ノ移轉ト云フ、物件の行爲其モノガ
要素ニナツテ居ルヤウニ思ヒマスカラ斯様ナ質問ヲシタ、併

關係ニ付キマシテハ二三種類ハアルヤウデスガ、大體性質
ハサウナフテ居ルカト思ヒマス、ソコデサウ云フ類ノモノガ
果シテ信託ト云フヤウニ當ルヤ否ヤ、本法制定ノ際ニ於テ
モ隨分研究致シマシタ、殊ニ日本デ信託行爲ト稱スルモノ
ハ多クノ部分ヲ占メテ居ルモノガアリマスシ、信託法ヲ制
定スル時分ニ隨分研究致シマシタ、其性質ヲ確メマシタ
上デ、果シテ此處ニ定メラレマシタ所ノ信託ト云フモノニ
當ルヤ否ヤ、若シ當ルナラバソレデモ宜シイ、又當ラナイモ
ノデアルケレドモ、本法ノ規定ニアル主義ヲ準用シ、適用ス
ルモノガアルナラバ、ソレモ定メテ置ク方ガ宜シイト云フ

又ガ、詰リ財産權ノ移轉ヲスルコトニ依テ、茲ニ初メテ信託上ノ債務關係ト云フモノガ起テ來ルト云フコトニ歸着スルト思ヒマス

○池田政府委員 其他ノ處分ト云フニトラ書キハシタノノ必シモ信託ノ目的トナリマスル所ノ財産權其モノノ移轉ト云フコトニ限リマセヌデ、例ヘバ擔保權ヲ設定スルト云フヤウナ事デアリマスガ、是ハ現在モ成立ッテハ居リマスガ、擔保附社債信託法ノ如キニ於キマシテハ、社債ニ擔保ヲ付

ナ、必ズソレニハ受益者ト云フモノガアリマシテ、信託ノ利益ヲ取得スル者ノ爲ニ管理スルト云フノガ、此所ニ規定シテ居リマス信託ノ骨子デアルト云フコトハ、先刻引キマシタ信託ノ本質ニ關スル條文デ分ニテ居ル、受託者ト云フモ

○鉢木(富)委員 其御説明ダト、財産權ノ移轉行爲其モノ、ガ信託行爲ノ要素ニナルト感ジマス、サウスルト云フト、矢張債權契約デハナクシテ、物件契約ト云フ説明ヲ取ラナケレバ、首尾一貫シナイヤウニ思ヒマス
○池田政府委員 或ハ觀念ノ相違ニナルカモ知レヌト思ヒマスガ、詰リ信託ヲ致シマシテ、財產權ノ移轉ハ成立スルケレドモ、其財產權ノ移轉ト云フモノハ、契約ノ成立要件デナ

シマス場合ニ擔保權ヲ設定スル、其擔保權ガ信託ノ目的ニナル、其擔保權ヲ設定ヲ受ケタ、所謂擔保權者ガ社債權者ノ爲ニ擔保權ヲ有スルト云フコトヲ發見スル、是等ノ場合モアルシ、地上權ヲ設定スル、サウシテ地上權ト云フモノノ第ニシテノ利益ノ爲ニ利用致シマシテ、之ヲ貸付ケルナラバ收益ヲ與フルト云フヤウナ考ガアリマスノデ、移轉ト云フ言

ノハ信託財産ノ所有者トナルガ、是ハ自己ノ爲ニ其財産ヲ
取得スルノデハナク、受託者ヨリ申シマスレバ、常ニ他人ノ
爲ニ其財産ヲ取得スルト云フコトニナラネバナラヌ、故ニ
特別ノ場合ヲ除クノ外、受託者ト云フモノハ其財産ノ利益
ヲ取得スルコトヲ原則トシテ許サナイ、即チ委託者ノ爲ニ
財産ヲ管理スルノデアル、其委託者ガ自己ニアリトスレバ、

イ、故ニ後カラ財産權ヲ移轉シテ、物件行爲ト云フモノハ後カラ出來テモ宜シイ、然ラバ信託上ノ所謂義務、即チ管理ノ義務ト云フモノヲ、現實ニ茲ニ實行スルコトニナルニハ、物ガ無ケレバ管理ト云フ客體ガアリマセヌカラ、其物ガ現實ニ受託者ノ手ニ歸スル、其債務關係ハ現實ニ發生スルト云フ積リデアリマス、或ハ結局法理上ノ觀念ニナルカ

○鈴木(富)委員 餘程能ク分リマシタ、移轉以外ニハ財産權ノ設定ガ主タルモノテ、其他ニハ餘リアリマセヌカ
○池田政府委員 大體サウダト思ヒマス
○鈴木(富)委員 尚ホ一ツ金ノ爲メ同ヒマス、資本賃保ハ

ヲ考ヘマスト、信託財産ト云フモノハ何デアルカト云ヘバ、
擔保タル財産デアル、其擔保タル財產ト云フモノハ、受託者
デアル所ノ債權者ガ、自分ノ債務ノ辨済ヲ受ケル爲ニ之ヲ
貰フト云フコトニナレバ全ク自己ノ爲ニ其財產ヲ得タノデ

御趣旨テスカ

於キマシテ財産權ヲ得ルノト全ク同様元自己ノ利益ノ

テ居リマス、其解釋ハ有リ得ルト云フコトニナリマスネ
○池田政府委員　其法律關係ト申シマスルカ、私共ガ現ニ
其財產權ニ、信託財產ノ管理義務ヲ現實ニソコニ負フト云
フコトハ、財產ノ移轉ガナケンバ、ナラスト云フコトニナル
ソレヲ申シテ即チ財產權ノ移轉ニ依テ信託ガ發生スルト
云フノモ、理論カラ言ヘバ別ニ差支ナイト思ヒマス、契約其
モノトシマシテハ、茲ニ信託ラスルト云フ約束ガアレバ、財

○池田政府委員 所謂資渡擔保ト稱スルモノガ、現在ノ判決例ニ於キマシテハ信託行為ト稱セラルモノガ多數古テ居リマス、ソレガ果シテ本法ノ制定ニ依テ、大審院ノ解釋ト云フモノガ之ニナルノデアラウカ、或ハ從來ノ通リデアルカト云フ御質問ノ御趣旨ト心得マス、先程引キマシタ一一體資渡擔保ト稱スルモノノ内容ハ確實デハアリマセヌケレドモ、大體財産ヲ債務者ヨリ債權者ニ移轉致シマシテ、サウシテ危險ガ來タナラバソレヲ處分シテ、債權ノ返済ニ當テルト云フノガ資渡擔保ト稱スルモノデアリマス、其法律論

爲ニ財産権ヲ得テ居ルノアリマス、デアルカラ其性質ガ此所ニ謂フ所ノ信託ニ合ハナイ、其一番ノ特徴ハ、此處ニ規定シテアル信託ト云フモノハ今申上ゲタヤウニ委託者ノ爲ニ管理處分スル所ノモノデ、其利益ヲ自分ノ物ニスルコトヲ許サレナリ性質ノモノデアルカラ、其受託者ガ死亡シタト假定シマスレバ、其信託財産ト云フモノハ、其受託者ノ相続財産ニ屬セズト云フコトガ即チ信託ノ本質カラ來ルノデアリマスソレハ第十五條デアリマス「信託財産ハ受託者ノ相続財産ニ屬セス」、此場合ニ受託者ト云フ者ガ死亡シテ、

受託者ノ缺員ガ出來タ時ニハ、信託ノ目的ヲ完了シテ居リ
マセヌカラ、何處マデモ續ケテ行カナケレバナラヌ、其中心
トナル受託者ガ亡クナッタ時ニハ、色々ノ規定ハアリマセヌ
ガ、結局他人ヲ以テ受託者ノ後任者ヲ擁ヘテ、其後任者ニ信
託財産ヲ引繼イテ、サウシテ信託ノ目的ヲ達成スルト云フ
コトニナルノデアリマス、即チ信託財産ト云フモノハ、受託
者ガ死ニミシタ時ニハ相続財産ニハ屬セナイ、デアルカラ
此觀念ヲ以テ賣渡擔保ニ適用シテ見ルト、賣渡擔保ヲ先代
ガ取テ居タ、先代ガ死シダカラ賣渡擔保ノ所有權ヲスカ
リ失ツテ、他ノ人ニヤラナケレバナラヌト云フ様ナ事ハ、
產權ト云フモノハ受託者ガ自分ノ爲ニ取得スル、即チ信託
賣渡擔保ノ性質ニハ合フマイ、ドウシテモ其場合ニハ相續
ニアラズシテ取得スルモノデアル、斯ウ云フコトニ信託法
ノ見地カラ云ヘバナルノデアリマスソレカラ又モウ一ツ
等ノ性質カラ考ヘテ見テモ、結局賣渡擔保ノ場合ニハ、其財
其性質ガ違フト云フノハ、十二條ノ規定デモ同ジデアリマ
ス、十二條ノ規定ニ依リマスレバ、所謂詐害的信託、此弊害
ヲ防グ爲メノ規定デアリマス、債務ヲ帶びテ居ル者ガ、其債
權者ヲ害スル爲ニ自分ノ財産ヲ他ニ信託シテシマフ、前ニ
申シマシタ通り所有權ヲ完全ニ受託者ニ移シテシマフ、サ
託者ガ善意デアッテモ之ヲ取消サシメル必要ガアル、又取消
サシメテモ受託者ガ損害ヲ被ルモノデハナイトニ受託者ノ
権利ヲ保護スベキモノデナイト云フノデ、十二條ニ於キマ
シテハ、委託者ガ善意ノ時ニ於テモ之ヲ取消スト云フ事ニ
シテ置イタノデアリマスガ、之ヲ賣渡擔保ノ時ニ考ヘマス
ト、賣渡擔保ヲ取得スル者ガ善意ニ所有權ヲ得タ、此場合ニ
ハ民法ノ四百二十四條ノ取消ガ行ハレテハ迷惑デアル、是
等賣渡擔保ノ所有者ハ、自己ノ爲ニ利ヲ權取得シタ者デア
ルカラ、斯ウ云フ場合ニハ民法ノ規定ニ依ル限ニアラズ、是
等ノ點ガ先づ信託ト云フ者ト性質ヲ異ニスル要點デアラウ
ト思ヒマス、サウ云フ點カラ全ク性質ガ異ナルヤウデアル、
英吉利ノ立法例ニ於テモ、矢張賣渡擔保ニ付キマシテハ信
託ニアラズスト云フコトニヤッテ居ルヤウデアリマス、デアリ
マスカラ、賣渡擔保ト云フモノニ對スル法律上ノ性質ヲド
ウ見ルカラト云フコトハ、本法ニ關係ナク、今迄ノ通リノ解釋
デ進ンデ行クコトデアラウト思ヒマス
○鈴木(富)委員 只今ノ御説明デ能ク分リマシタカラ、此
事ハ是デ打切りマス、ソニコデ第十一條「信託ハ訴訟行爲ヲ爲
サシムルコトヲ主タル目的トシテ之ヲ爲スコトヲ得ス」ト

云フ條文ガ、ゴザイマスガ斯業ナ次第アリマスト、從來ノ取立ノ爲ニスル債權ノ信託讓渡ノ如キハ、結局訴訟行爲マテ行カナケレバ目的ヲ達セヌ場合ガ多イノデスガ、ソレ等ハ禁ズルト云フ趣旨ニ受取テ宜シウゴザイマスカ
○池田政府委員 ソレモ沟ニ御尤ナ質問デアリマスガ、此十一條ハ謂ハバ脱法的信託ヲ保護セナイト云フ考カラ出マシタモノデアリマシテ、御承知ノ通り、民事訴訟法ノ規定ニ依リマスレバ、訴訟代人トナッテ、裁判所ニ於キマシテ、手續ヲ致シマスニ付テハ、相當ノ制限ガアルノデアリマス、ソレヲ満了テ訴訟行為ヲヤルト云フ事ヲ主タル目的ト云フコトニ書キマシタノハ、ソコニ意味ガアルノデアリマス、全ク訴訟ヲヤル目的デ其權利ヲ移スト云フコトニ、餘程重ミヲ置イテ居ル積リデアリマス、一方ニ於テ係争ノ風ヲ助長シ、一方ニ於テ只今申シタ民訴ノ規定ヲ満了ト云フ事ニナッテハ、ノ方法トシテハ或ハ普通ノ民法上ノ手續ヲスル、ソレデ目的一ヲ達セザル場合ニ於テ訴訟スルト云フノハ、毫モ差支ナインデアリマス

○鈴木(富)委員 ソレカラ詐害行爲ニ關スル規定ハ十二條ニアリマスガ、尙ホソレニ類スル規定ガ三十一條ニアルヤウニ思ヒマス、是ハ信託ノ本旨ニ反シテ信託財産ヲ處分シタ時ノ救濟規定デアルト思ヒマスガ、此場合ニ於テハ「處分ヲ取消スコトヲ得」トアリマシテ民法第四百二十四條ニ、所謂「取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得」ト云フ規定ニ比較スルト、餘程強イ救濟ニナッテ居ルヤウデゴザイマスガ、サウ云フ趣旨ニ了解シテ宜シウゴザイマスカ

○池田政府委員 三十一條ハ民法ノ詐害行爲トハ稍々其性質ヲ異ニシテ居リマシテ、詰リ受託者ハ信託行爲ノ定ムル所、竝ニ法律ノ命スル所ニ依テ、其信託財産ノ管理處分ヲ爲スト云フ債務ヲ負擔シテ居ルヤウナ譯デアリマス、所ガ此義務ニ違反シマシテ、即チ信託ノ本旨ニ反シマシテ、其財産權ヲ他ニ處分シタ例ヘバ或ル不動産ナラ不動産ヲ信託致シマシテ、是ハ一定ノ期間、例ヘバ五年ナラ五年、十年ナラ十年ト云フモノハ此儘ニ捨置イテ、然ル後ニ之ヲ適當ナル家ヲ建テ、人ニ貸付ケテ、其收益ヲ收メテ呉レトカ、或ハ其儘ニ之ガ他ニ貸付ケマシテ、借地料ヲ上ゲテ、之ヲ以テ例シテ貰ヒタイト云フヤウナ信託ガアッテ、其期間内ト云フモノハ之ヲ不動産ナラ不動産ノ形ニシテ置キマシテ、是デ或ハベ教育費ニ使フトカ或ハ何等カノ方法ニ使フ、是ハ色々アリマスガ、サウ云フヤウナ事ト假定致シマスト、其間ト云

云フコトニナッテ居ル、之ヲ直ニ賣^テシマフト云フコトヲ
假定シマス、或ハ之ヲ他ニ吳レテシマッタ場合ニハ、即チ受
託者ガ第一條ノ債務ニ違反シテ信託財産ヲ處分シタト云フ
場合ニ當ルノデアリマス、此場合ニ於テ受託者ガ有スル所
ノ救濟方法、之ガ信託上ニ於ケル一ツノ重要ナル問題デア
リマシテ、色々ノ方法モ英吉利アタリデハアルヤウデアリ
マスガ、本法ニ於キマシテハ、我國ニ最モ適切ナル方法トシ
マシテ、其場合ニハ即チ其處分ヲ取消ス、對手方若クハ轉得
者ニ對シテ其處分ヲ取消ス、取消シテ其託財產ト云フモ
ノヲ之ニ戻スト云フ事ノ權利ヲ與ヘタ次第デアリマス、受
益者保護ノ爲ニ此規定ヲ置イタヤウナ次第デアリマス、詐
害行爲ノ取消ニ關スル民法四百二十四條ノ方トハ、稍々共
性質ヲ異ニシテ居ルノデアリマス
○鈴木(富)委員 性質ヲ異ニシテ居ル事ハ承知シテ居リマ
スガ、唯一方ハ裁判所ニ取消ヲ請求シ、此方ハ唯取消ノ意思
表示サヘスレバ宜シイコトニナッテ居リマスカラ……
○池田政府委員 ソレハ御説ノ通リデアリマス
○鈴木(富)委員 ソレカラ第四十一條ニ「信託事務ハ營業
トシテ信託ノ引受ヲ爲ス場合ヲ除クノ外、裁判所ノ監督ニ
屬ス」トアリマスガ、是ハ其受託者ノ住所地ヲ管轄スル地方
裁判所ト云フコトニナッテ居リマス
○指田委員長 何カ信託ニ御質問ハアリマセヌカ
○池田政府委員 ソレカラ一寸申上ゲテ置キマスガ、信託
協會ノ方カラ出テ居ツタモノデ、是ハ確カ司法次官ノ方カラ
御説明ニナッタコト、ハ思ヒマスケレドモ、受託者ガ法人デ
アリマス場合ノ理事者ノ責任ニ付キマシテ、特ニ規定ガ設ケ
ラレタノデアリマシテ、之ニ就キマシテハ其責任ノ期間ト
云フモノヲ限定シテ貰ヒタイト云フノガ希望ノ趣旨ノヤ
ウデアリマシタガ、是ハ責任ノ期間ヲ限定致シマスノハ、時
蓄銀行法其他ニモ例ガアリマスガ、是レハ在任中ノ債務ニ
付テハ兎モ角責任ヲ負フト云フ意味ノ規定デアリマス、茲
ニ信託法ニ掲ゲマシタノハ、サウ云フ唯自分が在任中ニ起フ
ク債務デアルカラト云フヤウナ意味デアリマセヌデ、更
ニ一步ヲ進メマシテ、信託違反行爲、事務違反行爲ニ干與シ
タル者——干與ト申シマス意味ハ其決議——理事者ガ直グ
ヤレバ決議ニ賛成スル、或ハ自ラ實行ニ當ルト云フ、違反行
為自體ニ干與シタ自己ノ有責行爲ニ基キマシテノ責任デア
リマスカラ、是ニハドウモ唯法律上期限デ以テ打切ルト云

フ性質ノモノデハナイ、斯ウ云フ趣旨デアリマスカラ、其點
ノ御了承ヲ願ヒタイト思ヒマス
○指田委員長 御説明致シマスガ、信託法ニ對スル質問ハ
別ニ極限スル意味チャアリマセヌケレドモ、先づ大體ニ於
テ此邊ニ終了シタコトニ致シテ宜シウゴザイマベカ
○鈴木(富)委員 之ヲ一ツ聽イテ戴キタイ、當業者カラ出
テ居リマス 修正希望條項ノ中ニ、第一條ノ「又ハ處分」トア
ル下ニ「事業ノ經營」ヲ入レテ貰ヒタイト云フ要求書ガ來テ
居リマスカ……

○指田委員長 此間其説明ハアリマシタ
○鈴木(富)委員 アレバ宜シウゴザイマス
○指田委員長 ソレデハ今日ハ此程度デ閉會フ致シマシ
テ、次回ハ追テ日ヲ定メマシテ公報ヲ以テ御知ラセ致マス

午後四時三十一分散會

大正十一年三月十三日印刷

大正十一年三月十四日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局